

生坂村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会要旨

1. 日時及び場所 平成29年2月28日(火)午前10時
村民会館 講堂
2. 出席者(24名) 竹内勇(会長:区長会長)、赤羽勲夫(副会長:農業委員)、平田勝章(村議会議長)、山崎清一(村議会副議長)、荻久保幸男(村議会議員)、中澤幸弘(村議会議員)、瀧澤龍一(議員)、腰原義雄(議員)、市川寿明(議員)、金原光宏(生坂郵便局長)、平林和樹(商工会青年部長)、上手紀義(松本ハイランド農協生坂支所長)、宮川虎雄(松筑建設労働組合長)、太田譲(公募委員)、石原徳義(新規就農者)、小澤弘明(生坂中学校長)、楠本侑司(農村開発企画委員会)、上条洋(県松本地方事務所地域政策課)
藤澤泰彦(村長)、市川廣美(教育長)、牛越宏通(総務課長)、山本雅一(村づくり推進室長)、日岐孝(総務課財政係長)、中山茂也(総務課総務係長)

3. 協議事項

1 生坂村まち・ひと・しごと創生総合戦略施策の検証について

1. 安定した雇用の創出

Q: 評価を見たがほとんど「B」。予定通りそのまま継続していけば良いという評価になっている。KPIの目標値自体が若干甘いと思う。最少ということでこれは良いとしても、2頁の商工業の育成支援のところ、事業者数はまったく増えているわけではなく、現状維持。2企業というところでも全く変化がない。前に進んでいるという現状ではない中で、現状維持、目標通りという評価は少し甘いのではないかと。

就労センターのところでも、家庭授産の人数が減っているにも関わらず評価は「B」。ここは「C」評価でも良いのではないかと。

A: 目標値については、総合戦略の中で無難にやっているのではないかと感じられる。人口ビジョン等を参考に、人口減も加味してこのような目標値が設定されているのではないかと。今後、総合戦略に沿って事業を行っていくなかで目標値のシビアな評価は伝えたいと思う。ご意見をもとに、職員ともう1回評価の仕方等について調整させていただければと思う。

2. 村からの人口流出を抑制し、村への移住者の増加を図る

Q: 5頁に、地域の資源に活かした交流の推進とある。これを見るとやまなみ荘を中心に書いてある。村は南北にわたって地域の資源がある。それらの取り扱いをどうしてきたのか、その反省点が見えない。

A: 5頁では、やまなみ荘を利用した人のアウトドア体験者の目標数値を定めている。村内

には他のアウトドア利用者もいる。全体的な計画については、振興課担当者とやまなみ荘などと連携してやっている。4頁には村内の宿泊者数が載っており、ここにはやまなみ荘だけでなく他の宿泊施設も含めた目標値を定めている。把握しやすい部分を目標値として定めているので、やまなみ荘は利用者の把握がしやすい。ただ、個人的に登山等をして帰って行く人たちについては、不確定な数値が出てしまうので目標値として定めていない。観光資源について、今後どうすべきか検討していかなければならない。

Q: 南部では日岐や小立野、北部には山清路、古坂の神社などに観光資源がある。村一体的な考えで、その上でやまなみ荘を利用するというプランも良いのではない。

A: インターネットなどを通して、ふるさと納税を多くの方にももらえるようになった。その返礼品として、宿泊プランを入れてはどうかと担当課に投げかけている。観光と宿泊を兼ねた、やまなみ荘利用プランを検討していきたいと思う。

Q: 総合戦略の違う点は、評価と改善という項目が入っていること。担当課による自己評価は大体「B」になる。これは村民、もしくは村民の代表である村長が評価するべきではないか。そして担当課の人と話し合いながら更に改善する。そうしないと平均的なところに納まってしまう。今後改善すべき点が見えにくくなる。まずこの資料の横文字がよくわからない。KPIとか。説明をしてもらえるとありがたい。

A: 部内で調整したいと思う。

Q: 8頁の村営バスの月平均利用者数、27、28年度とも100%を超えて利用者が増加している。デマンドバスは減少傾向なのは改善点があるのでは。人口密集地からの始発バスの便数に偏りがあるほか、子供の環境にあった時間帯の運行などがまだ十分行き届いていないのではないかと。どういう地域や世代の人にヒアリングをしてダイヤを決めているのか明確にしてほしい。若い子育て世代の利用者が増加すれば利用率も上がると思う。育児がしやすい環境にもつながる。そういう点を改善課題として明記してもらえれば。

A: 村営バス全体の利用者数は増加傾向。特に犀川線の利用者数が年々増加。デマンドバスの利用者減については、先月開催の村営バス運営協議会、公共交通会議の中でも説明し、皆さんからご意見をいただいている。利用者のニーズに沿った運行については、毎年5月に村政懇談会を行う際にそれぞれご意見やご要望をいただき、参考にしながら協議をしている。今後更に利用者の意見をすくえるような方策を考えて進めていきたいと思う。

Q: KPIの目標値が110数%で既に達成している。この数値をこのまま続けるのか。もう達成しているから良い、とも受け取れるが、目標値の見直しなどはしないのか。ブロードバンドのサービスも53%が目標だが、今52・8%と、ほぼ達成目前。円滑に利用できる環境を維持していくというブロードバンドがこの村でうまく利用されるのか、そのためにこの村に住みたいと思わせる施策であるなら、ブロードバンドを使うメリットを前面に出すような施策がこの中に入っても良いのではないかと。

A：村営バスの KPI が低いのではないかと、という質問ですが、資料は月の平均利用者数ということで計算している。犀川線の利用は増えており、今後ももっと増えるのではないかと希望的観測もある。通勤通学の利用者数は、伸びることもあれば落ち込むこともある。そこで利用者数の目標値をどうするのかは、なかなか難しい判断になる。今後子供の数が減っていくことを考えれば、ここ数年が利用者数のピークと推測される。利用者数の目標値の見直しについては、また検討したい。

ブロードバンドは、若干だが年々加入者数が増えている。もうすぐ目標値達成だが、こちらも21年に事業実施をし、それから10年弱が経過してここまで普及が進んだ。加入による優待などについては、また検討したい。

A：KPIの目標値に達したのものについては、どうして達したのか、今後どうすべきなのか分析すべき。それを生かしてKPIの変更すべき点を検討していかなければ、せっかくの計画が生きない。初めてのことで、今回の評価についての再検討をまた進めたい。

Q：目標値は、頑張らないと届かないというものだと思う。普通にやっていたら届くのであれば、目標値としてふさわしくない。1年目ということで、あまり値については言っていないが、今後見直しをする中でそうした点も考えてほしい。

3. 結婚・出産・育児がしやすい環境を整える

Q：12頁にALTの関わった授業についてKPIに挙げている。これは普通にやっていたら達成されるので、KPIに入れる必要性があるのか。

A：当時の事業課と調整したい。もう少し精査をしなければいけない点があると思う。

Q：よりきめ細やかな中身にしないと、何でも100%達成になってしまう。評価の仕方がおかしい。

13頁の婚活イベントでも、未婚の消防団員に話を聞いたことがある。村民にとっては、村の中でのイベントに参加するのは恥ずかしいという思いがある。例えば北部3カ村と合同で、向こうでやったりこっちに来てもらったりすれば、(出席率が)少し改善するのではないかと。

10頁の乳幼児健診、助産師訪問など、何でも100%になってしまうのか。中身の話が見えてこないで、きめ細かな改善策の話をしてほしい。

A：KPI100%について、訪問しなければいけない人数に対して、どれだけ訪問したかという数値を出している。今後の村の人口を考えると、実数よりも%でやった方が良いのではないかと、当時担当者らと調整した。数値で出すものと%で出すものについての検証は、今後必要。目標値をどう設定するか事務方がしっかり考える。

Q：%でもわかるが、どこかに何年には子供が何人生まれたといった数値を書いてもらえば具体的にわかりやすい。

A：確かにわかりやすいので、調整したい。

Q：13頁の婚活イベントと、転出者を25人以下に抑えたいという表記は、何の関連性があるのかわからない。婚活イベントは、独身男性にアンケートを取って、どうしても結婚したいという人が多いからやっているのか、ただ施策としてやらなければいけないというだけで村としてやっているのか。それによって目標値の達成率も変わってくるし、参加者の意欲にもつながる。それによって持続するのか、内容を変えていくのか、連携するかなどを検証しなければ、達成率は0のままではないか。

A：婚活イベントは難しい問題。KPIの目標値の設定については、どのような事業をしなければ達成できるかと考えてのことだと思う。議論したりいろいろな意見を聞いたりしてやってきたが、なかなか思うよういかない。結婚して村に定住してもらうのが理想。何がいけなかったのか、どういう風にすればいいのか皆さんと考えていきたい。

Q：結婚相談員をしている。婚活イベントと結婚がすぐ結びつくのは本当に難しい。見合いなどにも関わっているが、先日式を迎えた人の相手は村外の人。やはり村内だけでは難しい。近隣市町村など広域で開催できないか。

A：プライベートな面が多く、行政としてもどこまで踏み込んで良いか悩む問題。婚活サポーターをお願いしているが、啓発していくべきか。

結婚マッチングシステムに加入して、村内の独身者に啓発し、登録の働きかけをする予定で当初予算に計上している。登録料金などを村費でまかなう考え。更に県主催の婚活イベント等に参画して出会いの場を設けていただければありがたい。結婚支援委員会でも一緒に協議をしながら、村としてどこまでやればいいのかご指導いただきたい。

Q：11頁の児童クラブ利用率、登録率とは？これを見ると児童クラブに子供が入った方が良いように見える。クラブなら入っても入らなくても自由では。婦人会や青年団、老人会も入らない自由があるのではないか。

A：児童クラブに登録している人が、児童館を利用している率。

細かく項目を分け過ぎている面があるので、部署内で検討したい。

4. 時代にあった地域をつくり、安心して暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

Q：相対的には良いと思う。人がいないと計画を立てても達成は難しい。まず人がここに住める状況をつくってほしい。働く場がないと村の活性化につながらない。働く場をつくり、人口を増やしてほしい。ライフラインや子育てなど「B」評価ということで、あとは人がそろえばもっと良くなると思う。

A：企業誘致は難しいが、取り組んでいかなければいけない問題。農業法人を立ち上げて人を雇いたいという人が出てきている。IT関係を含めて、誘致できる企業を検討していきたい。

Q：総合戦略は、役場の課の仕事で終わりそうに見える。住民がどう関わるのか見えてこ

ない。人口が増えれば可能、という計画が多い。人口増は村だけでなく、村民の協力が不可欠。各9地区で1年に1世帯、計9世帯を増やせば。

若者はパソコンでSNSが使える。地区の行事や風景、農作業の様子、空き家情報、道普請などの情報をネット上に流してもらう手もある。地区ごとの良さをアピールする必要もあるのでは。ただ、人口が増えれば良いというものではない。適正な人口で暮らしやすい村をつくっていくという考え方も必要では。各地区に協議会はないか。

A：各地区に常会はあるが、協議会はない。

Q：会議は1年に1回ではなく2回くらい開いて、進行状況の中間チェックをしたい。

Q：基本目標があり、それに対する達成目標がある。達成したものは目標から外すのか。見直しは必要では。目標の立て方はこれでよいのか。今年度、新たな目標値をつくってほしい。

A：人口ビジョンに基づき、いかに人口を維持するかということで総合戦略をつくり、改定してきた。1年目の検証はこれまでも行ってきた。来年度については、総合戦略の改定についても考えたい。それには審議会の中で話し合わないといけない。

2 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)事業の検証について

Q：体験ハウスを利用した人は、どういう生活をしていたのか

A：滞在して移住先を見つける活動をしつつ、バイトをしていた。

Q：ここで農業を覚えたいという感じで来ているのではない？

A：生坂に住みたいということであれば、職種は農業に限定していない。

Q：大城・京ヶ倉の登山道がとても好評。ただ、万平から登り万平に降りるしかない。やまなみ荘からの送迎などはないか。

A：住民有志団体が送迎をしてくれている。いつでもできるかは、費用対効果もあり難しい。送迎ボランティアが増えてくれればありがたい。村と団体等で話し合いたい。

やまなみ荘で行うことも、また考えたい。